

産官学連携活動 (2013 年度)

1. 地域に根ざした生涯学習等に関する産官学連携事業

■ これまでの活動の経緯の要約

(官学連携例 1) 公開講座

上尾市教育委員会・さいたま市教育委員会の共催「公開講座」は 2013 年度 4 講座開講。地域住民、のべ 230 名受講。

(官学連携例 2) リカレント教育講座

埼玉県福祉部と本学との協定による高齢者対象とする授業科目の開放は、2013 年度も実施。受講者 75 名。

(官学連携例 3) 学習支援活動

さいたま市教育委員会と本学との協定により、2010 年度より「教員を目指す学生による学習活動支援」を開始。本学学生をさいたま市立小学校に派遣。2013 年度の派遣学生はアシスタントティーチャーとして 4 名、チャレンジスクールに 2 名。

(官学連携例 4) キッズ・ユニバーシティ・さいたま

子どもの知的好奇心を刺激し、学問への憧れを抱く学びの機会を提供することを目的とした、埼玉教育コラボレーション協定*に基づく取り組みで、さいたま市内に住む小学 6 年生を対象に開催し、2013 年度は児童 71 名、保護者約 60 名が参加した。

実施日 2013 年 12 月 7 日(土) 開催場所 聖学院大学

*さいたま市教育委員会と聖学院大学が 2010 年に締結。教員養成や教員研修に関する様々な面で連携協力を図りながら、学校教育と大学の充実発展に努める。

(官学連携例 5) 子ども大学 あげお・いな・おけがわ

本学、日本薬科大学、埼玉県教育局、上尾市教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会で組織された子ども大学 あげお・いな・おけがわ実行委員会が主催する子ども大学は小学校 4～6 年生までの違う学校・学年の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ子どものための大学で大学教員など専門家がわかりやすく教える。

2013 年度は 6 月 8 日(土)、6 月 29 日(土)の 2 回を本学で開催。それぞれ 55 名、64 名が参加した。7 月 6 日は埼玉新都市交通(株)本社、9 月 7 日、10 月 19 日は日本薬科大学で開催。

■ 成果事例における雇用・経済効果、社会的意義等のインパクト

地域住民への生涯学習の動機づけ、地元小学校との連携、関係強化などの利点がある。もちろん、いずれの事例についても、本学学生が刺激を受け、その後の勉学の励みになっているという効果がある。

■ 産学連携のきっかけ

官学連携は、協定等がきっかけである。

2. 地域産業界との連携事業

■ これまでの活動の経緯の要約

さいたま北商工協同組合との連携が行われ、2012 年度のさいたま北商工協同組合の事業計画書に聖学院大学のインターンシップ事業の実施が組み込まれた。2013 年度は実質初年度ということもあり、2 事業所 4 名の実績であった。

■ 成果事例における雇用・経済効果、社会的意義等のインパクト

同商工協同組合の事業計画になることで、本学の就業力の学修の場の拡大、また地元企業にとっても本学の学生の採用とのマッチングが期待できること。

■ 産学連携のきっかけ

同商工協同組合は、本学地元経済団体である。従来からの本学教員などの連携を通して関係の醸成に努めている。